

平成十六年一月三日

第三二四回 史跡めぐり

深川七福神を訪ねて

越谷市郷土研究会



第三二四回 史跡めぐり

深川七福神を訪ねて

日時 平成十六年一月三日 午前八時二十五分

集合場所 越谷駅東口

コース

日比谷線

東西線

越谷駅 — 茅場町駅 — 門前仲町駅

・富岡八幡宮 【恵比寿】

・冬木弁財天 【弁財天】

・心行寺 【福祿寿】

・円珠院 【大黒天】

・間宮林蔵の墓 【本立院】

・龍光院 【毘沙門天】

・紀伊国屋文左衛門の墓 【成等院】

・深川稻荷神社 【布袋尊】

・深川神明宮 【寿老神】

・解散・最寄駅 都営森下駅

「営団半蔵門線清澄白河駅

参加費 一、五〇〇円（交通費・資料代・保険料他）

案内者 幹事 西村 功



◆深川

新編武蔵風土紀稿によると、昔はこの付近一帯は、葦の茂った湿地帯でしたが、天正の頃に摂津国（大阪府）から深川八郎右衛門が一族を引き連れて、この辺を開拓していました。徳川家康が慶長元年（一五九六）に鷹狩りに来たとき、地名を尋ねたが未だ地名がないと答えると家康が開拓者深川八郎右衛門の姓を村名にせよと命じ、以来深川村と称したと言われています。その後深川は江戸の発展とともに、小名木川の水路が開かれ生活必需品をはじめ、関東一円の多くの物資が江戸へ送られるようになり、又、明暦の大火（一六五七）後の大江戸建設に伴って、消費物資搬送集散の重要河川となり、それと共に市街地として発展しました。深川の地名は、より広い地域を包括する地名になり、各町は深川〇〇町と称するようになりましたが、住居表示制度の実施とともに深川の冠名は廃され、今では深川一・二丁目になり名が残るのみとなりました。



宝 船

◆深川七福神巡り

深川七福神巡りは、昭和十二年に始まり戦災により安置してあった各社寺が全焼しましたのでしばらく中断していましたが、昭和四十五年正月から復活しました。近年特に東京の七福神として有名になり下町深川を巡る正月恒例の行事となりました。

七福神は、最初七福神を宝船に乗せた画から一般に広まったようです。江戸時代初期から、七福神に乗せた宝船を、正月二日、枕の下に入れて寝ると、吉夢を見ることが、盛んに行われるようになりました。この宝船の画に、聖徳太子の作と伝える回文歌（和歌・連歌・俳諧などで上から読んでも下から読んでも同音のもの）を書き添えた。

ながきよのとをのねぶりのみなめざめ

なみのりぶねのおとのよきかな

七福神の画は、明和五年（一七六八）丸山応挙三十六才の画いた七難七福図三幅が、有名です。これは大津（滋賀県）の円満院に安置され、国の重文に指定されています。

◆「富岡八幡宮」 恵比寿神

恵比寿神は富岡八幡宮境内の西側にある恵比須宮に安置されています。
恵比須神は伊弉諾尊いざなのみことの第三子にあたる蛭子尊ひるこのみことであるといわれ、全国の恵比須信仰の中心は、大阪府西宮市の西宮恵比須神社です。最初は航海安全の神として信仰されてきましたが、後に、商売繁盛の神として、広く信仰されるようになりました。エビス顔といわれるように、笑顔・愛敬・和顔愛語の福徳を人に授け、かつ福財の神として、信仰されてきました。また釣りの関係の人々の信仰も盛んです。



●富岡八幡宮

寛永元年（一六二四）に永代寺を開いた、菅原道真の子孫、京都の長盛上人が、八幡像を背って江戸に出て寛永四年富岡八幡宮を創立しました。以来この付近を埋め立てて社地とし、下町の象徴となり江戸三大祭りの一つとなりました。また、境内には、大相撲発祥の地として、歴代横綱の碑・大関碑、深川力持ちの碑等があります。

◆「冬木弁天堂」 弁財天



弁財天はインド名をサラスパティと言う川の名、意識して大弁天・美音天といわれ、この川の神が悪声を変じて美声に変える音楽の神・芸術の神でした。仏教の神となり、才智弁舌の神とされました。我が国では弁才天より弁財天として、財宝を施す福の神として信仰されるようになり、商売繁盛宮有の福徳を授け、芸道音楽の仏神として位置付けされ、池・川・沼・湖などに多く祭られ、蛇が神使とされてきました。また、弁財天は、智慧・延命・安楽を与えると説かれています。

●冬木弁天堂（古義真言宗）

冬木弁天堂は、木場の材木豪商冬木弥平次が宝永二年（一七〇五）茅場町から、深川に屋敷をうつし、町屋を建て町名を屋号から冬木町と名付けました。また、邸内の大きな池の畔に、堂宇を建て竹生島より勧請した弁財天を安置してお祀りしました。この弁財天は等身大の裸形の弁天にして、毎年一回衣装の着替行事をおこなってきました。明治三年（一八七〇）から一般に参詣を開放しましたが大正十三年の関東大震災によって焼失してしまいました。現在の弁天堂は昭和二十八年に再建され、お衣替えの儀式は十二年に一度の巳の年に行っています。また、毎年正・五・九の月には巳の日に開帳例大祭も盛大に行われております。

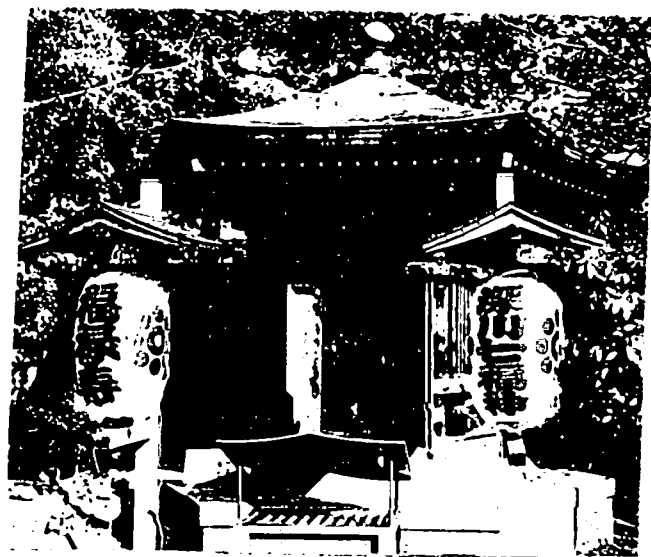
【心行寺】 福祿寿

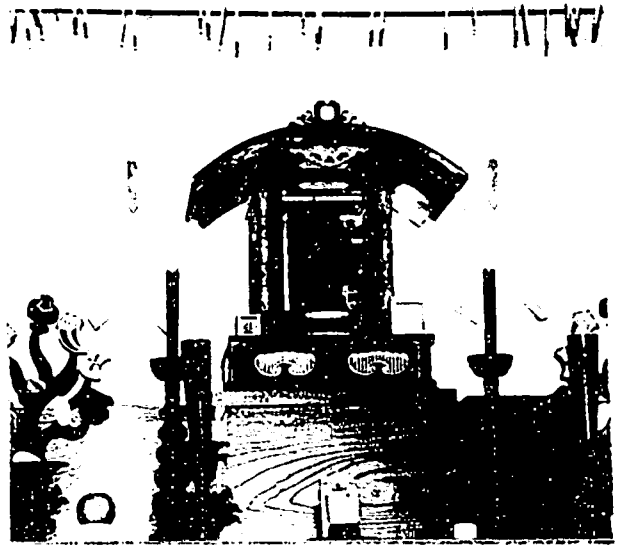
福祿寿は心行寺の境内六角堂に安置されています。

福祿寿は星宿（星座）の神、南十字星の化身ともいわれ、長寿をつかさどる人望福德の福神です。一説には、中国の宋時代嘉祐年間（一〇五六）実在した道士であるともいわれ、年齢数千年といわれています。また、福（幸福）と禄（高給生活）と寿（長命）の三つの福德を授ける福神とも言われています。

●心行寺（浄土宗）

元和二年（一六一六）八丁堀寺町（中央区）に創立され、寛永十八年（一六四一）現在地に移った由緒ある名刹であり、大正十二年の関東大震災と昭和二十年の戦災に焼失したが、現在立派な本堂が再建され、昭和五十年福祿寿を安置する六角堂が完成しました。境内には、江東区最古の五重石塔、清元川口直の宝篋印塔、工藤琳甫の墓等がある。





大黒天信仰に二つのながれがあります。一つは大黒天を大
国主命とするながれ、これは多くは神社に祀られています。
一つは、インド名をマハーカーラという仏神、色が黒いことか
ら大黒天といわれ、多く寺院に祀られています。

円珠院に安置されているのは、佛神の大黒天です。インドの
シバ神が、悪神を退治した神話から、仏教に取り入れられ、
魔か迦羅天まからてんすなわち大黒天となり、夜叉やしや荼吉尼衆たきにしゅうを降伏す大
日如来の化身となり、忿怒の戦闘神の姿をしていました。

ところが、中国では寺院の守護神、五穀豊穡の神などとして信
仰され、福の神として庶民に歓迎されて円満な笑顔の表情を
浮かべる姿になりました。古事記によりますと大國主命が、野
にあつて焼き殺されようとしたとき、ねずみが洞穴の中に導て
助けたという話しがあり、以来ねずみが大國主命の神使となつ
たといわれています。のちに、仏教の大黒天が「大黒」と「大國」
で同じ発音から調和して、ねずみが大黒天の神使となりまし
た。一月の最初の甲子の日を「初大黒」「初甲子の日」といって
大黒の祭りになっています。

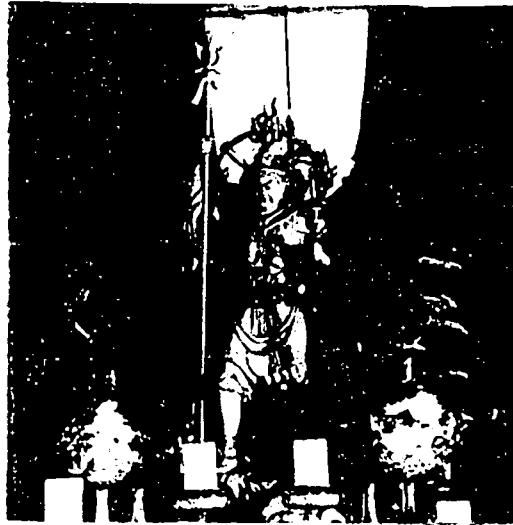
● 円珠院

享保のころ（一七一六）創立され、日蓮宗の名刹浄心寺の
塔頭寺院です。享保五年（一七二〇）十一月に画かれた大黒天
の掛軸があり、木造の大黒天が安置されています。江戸時代か
ら深川の大黒様として有名でした。境内には筑前置屋の家元
高峯筑風（高峯三枝子の父）の墓がある。

●間宮林蔵の墓

間宮林蔵は蝦夷全土を測量し、伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の北海道部分を完成させています。また、カラフト探検で間宮海峡を世界に先がけて発見し、単身黒竜江奥地をも探検した。幕臣に取り立てられ、弘化元年（一八四四）二月二十六日六十五才江戸で没す。

【龍光院】 毘沙門天



毘沙門天はインド名をバイスラパンナといい、音訳した語、意訳して多聞天とも称します。多聞天は、四天王の一。また、十六善神の一つであります。須弥山の北方を守護し、仏の道場に耳を傾け、説法をよく聞くから、多聞天と称します。

毘沙門天は、当初暗黒神であったが、しだいに光明神となりさらに施福の神となり、仏教の中に取り入れられてから、護法と施福の両面をもつ仏神として広く信仰されるようになりました。毘沙門天は、仏法を守護し国土を守護し、人々を守護する仏神、古来武將が信仰しました。七福神の毘沙門天は人に勇氣決断力を与える施福の神として、広く信仰されました。

●龍光院（浄土宗）

慶長十六年（一六一一）馬喰町（中央区）に創立、明暦三年（一六五七）の大火に焼失し、岩井町（千代田区）に移転、天和二年（一六八二）の大火に焼失し、同年現在地に移転しました。このとき鬼門よけとして境内東北角に、三尺ほどの石造りの毘沙門天が安置されました。戦災で道宇は焼失しましたが、昭和五十年木彫りの毘沙門天が安置されました。

●紀伊国屋文左衛門の墓

紀伊国屋文左衛門(紀文)は紀州の出身で、若いとき江戸に出て材木業を営みました。紀文は商才に富み、大老格柳沢吉保や勘定奉行萩原重秀と結び、元禄期の建設ブームの波に乗って、材木豪商となり、土木建設の工事を引き受け財を成しました。柳沢失脚後は没落し、門前仲町一の鳥居付近に住み、享保十九年四月二十四日に六十六才で没したといわれています。成等院に葬られました。紀文の墓は左隅にあります。正面の大きな紀文の碑は昭和三十八年に建てられたものです。

【深川稻荷神社】 布袋尊



布袋尊は中国唐時代の末に実在した契此けいじと言う禪僧で、超然とした生き方をしたといわれています。肩に布袋を担ぎ、布施を受けたものは何んでもそのなかに入れたといい、そこから「布袋」と呼ばれたといっています。中国では弥勒菩薩の生まれ変わりとして篤い信仰を集めています。また、時の晴雨を予知したともいわれました。後梁貞明二年(九一六)三月三日寂しました。日本では清廉潔白、大気度量を人々に授ける福神として信仰されるようになりました。

●深川稻荷神社

寛永七年(一六三〇)の創立、深川地区では創立の古い神社です。祭神は、宇賀魂命。

旧町名は、深川西大工町といいましたが、昭和七年八月一日深川清澄町と改称され、その旧名から西大稻荷と称しました。この神社は、無住社にして、町会によって管理運営されています。

【深川神明宮】 寿老神



参考図書

- 深川七福神
- 史跡をたずねて
- 下町文化探訪
- 間宮林蔵

- 深川七福神会
- 江東区
- 江東区
- 伊奈町教育委員会 他

深川神明宮の境内の寿老神社に安置されています。寿老神は寿老人とも書き、中国道教の神です。また、福祿寿と団体異名であるともいわれています。寿老人はふつうの体格で玄廬とよばれる長寿を象徴する鹿を連れていきます。人に延命長寿の福徳を授ける福神として、信仰されてきました。

● 深川神明宮

深川神明宮は深川において創立の最も古い神社です。今から凡そ四〇〇年前江戸時代がまさに開かれようとしていた頃、隅田川の流域、この深川の一体は葦の生える三角州で、未だ住む人もありませんでした。その頃、摂津の（大阪府）の人、深川八郎右衛門が一族を引き連れて、この辺りを開拓しておりましたが日頃より敬神の念篤く、伊勢神宮の御分霊を奉齎したのが、深川神明宮の創建に当たります。深川の発展に伴って深川総鎮守「神明宮」と称えられ、多くの崇敬を集めるようになり、今日まで深川の氏神様としてお祀りされております。

道順のご案内

順路にのぼりが立ててありますので、それを目安にお通り下さい。 恵比須神または寿老神を始点にされますと効率よくお通りいただけます。

① 恵比須神から弁財天へ

恵比須神を出て右へ、高速道路の下をくぐり、冬木交差点右手前方に弁財天。(所要時間5分)

② 弁財天から福祿寿へ

冬木交差点へ戻り直進。深川一丁目交差点を右へ曲がると角から3軒目が福祿寿。(角が福祿寿) (所要時間5分)

③ 福祿寿から大黒天へ

福祿寿を出て右へ、左に浮茶庵(色紙奥の欄干出免点)を橋のたもとに見ながら海辺橋を渡り、三叉交差点の右斜めの道へ、直進し、突き当たり右側角が大黒天。(所要時間10分)

④ 大黒天から毘沙門天へ

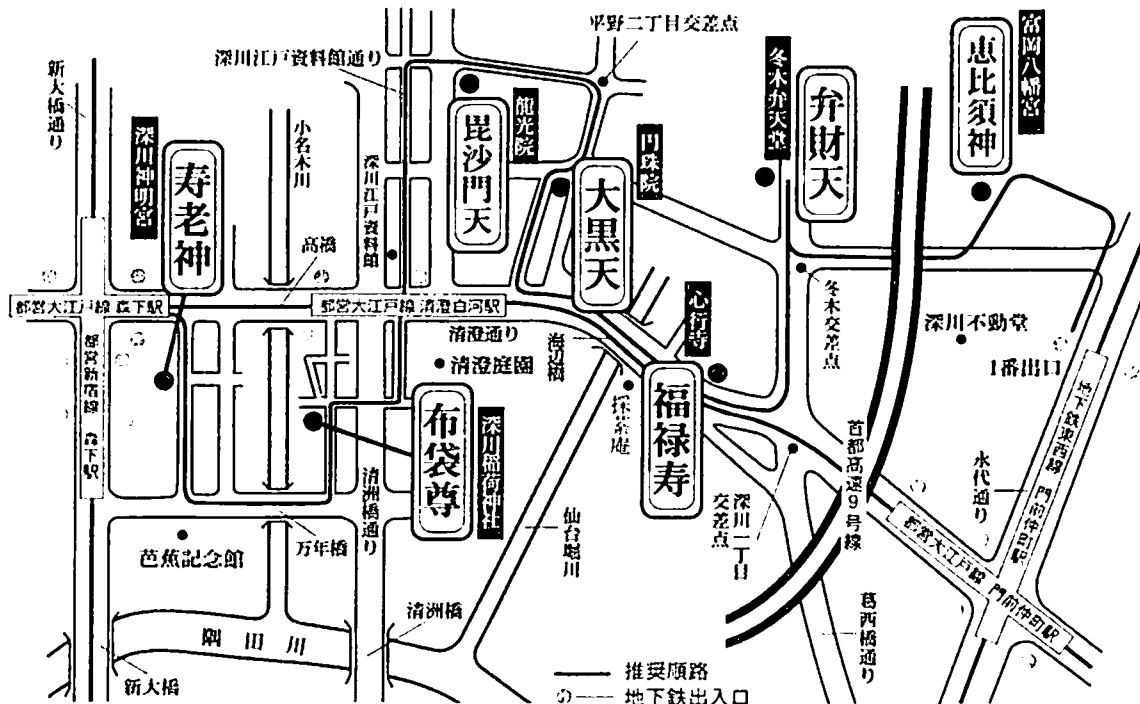
大黒天斜め前交差点を左に、左手に浄心寺を見ながら平野二丁目交差点を左折し、直進。(途中、左手に阿茶の局の墓) 少し歩くと左側角に毘沙門天。(所要時間10分)

⑤ 毘沙門天から布袋尊へ

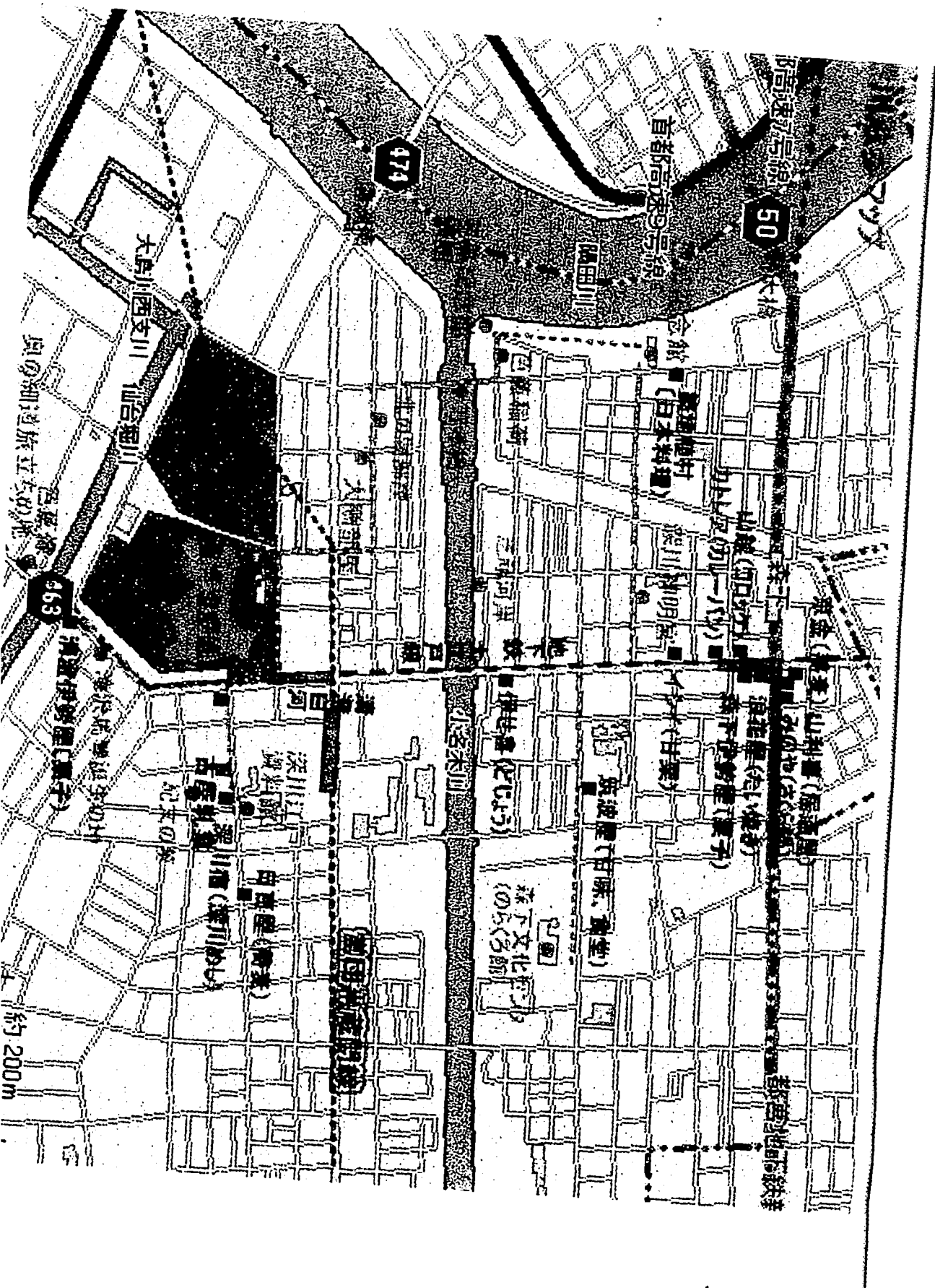
毘沙門天を出て左に、阿茶の局の墓で有名な雲光院を左手に見ながら次の信号を左に曲がり深川江戸資料館通りへ、右手に深川江戸資料館。次に松平定信の墓がある雪隠寺を見ながら清澄通りに入る。通りを横断して右に進み一つ目の角を左に入る、右手に本誓寺を見ながら清澄庭園入口の交差点を右折し、清洲橋通りを横断。左に布袋尊。(所要時間15分)

⑥ 布袋尊から寿老神へ

布袋尊を出て右へ、2つ目交差点を右折し万年橋を渡る。芭蕉記念館の向いの道を右へ、直進し左手に寿老神。(所要時間10分)



ご同業 ご同業は元月より1月15日の間、この期間内に色紙・冊・鈴の授与があります。(午前8時より午後5時迄。)



首都高速50号線

50

首都高速50号線

474

大野川西支川 仙谷堀川

奥の細道旅立本町

468

清道徳公園 (菓子)

深川江

紀文の茶

山利書 (原通書)

京成屋 (甘栗)

京成屋 (甘栗、書堂)

森下文化センター (のぶる館)

伊世書 (U.S.)

小谷川

都営地下鉄

約 200m